

なるべく広い範囲の人に書いていただくという意見は前から出ていたのですが、いざ編集当番をお引き上げすると、なかなか思うようになりません。本号も各地の会員にお願いしましたが、結局ごらんのようになってしまいました。しかし近世の庶民史料と史料目録がこうして本号に多く収録されたことは、大分県のためにも学界のためにも喜びにたえません。

史料の編纂とか、史料調査はきわめて地味なことではありますが、学問発展のためにはこれほど重要な意味をもった仕事はありません。しかしこれ等の仕事は、個人の力ではきわめて困難であります。それだけに大分県の文化は県民が守るという意味で、地方史研究会の組織は大変貴重であります。今後ますます、この組織の力でこうした仕事が続きますように祈ってやみません。

それと共に最近の土地造成や社会改変でドンドン消えて行きつゝある考古遺跡や民俗資料も何とか守って行かねば、いまに悔いを千載に残すことになりはしないかと心配でなりません。大分県地方史に課せられた責任と期待は大きいといわねばなりません。

ともあれ、お互い一番忙しい時に玉稿をお寄せ下さった皆様から感謝して後記いたします。(中野)

△お知らせ

第五十号(次号)は「明治特輯」号と致します。明治関係の原稿なら何でもよい。七月二〇日までご送附下さい。(立川)

後見地
一全名名簿

昭和四十三年一月二十五日印刷	昭和三十九年一月三十一日発行
編集兼 発行人 印刷人 印刷所 発行所	会費 年五〇〇円 渡 辺 澄 夫 高 井 久 雄 三恵印刷株式会社 大分市
大分大学教育学部国史研究室内 大分県地方史研究会 (振替下関五二九四番)	